

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年4月30日

事業所名 マイ児童デイサービス

事業所名 マイ児童デイサービスはっとり

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|--|----|-----|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | | 児童の特性に応じ、個別対応できる静養室の環境整備を行います。 |
| | 2 職員の配置数は適切である | ○ | | | |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | | ○ | | 建物の構造上、一部の段差の解消は難しいが、児童の療育に支障をきたさないよう、今後も介助等にマンパワーを活用し工夫していきます。 |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 毎年、年度当初に職員参加のもと、法人の活動指針と個々の事業所の行動計画を策定し、目標の達成に取り組んでいます。 | |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | | |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 法人の総会や理事会での意見の聴取や研修会での外部講師からの意見等を参考に業務の改善を図っています。 |
| | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | | 今後も開催時間等を工夫し、より多くの職員が参加できるよう取り組んでいきます。 |
| 適切な支援の提供 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | |
| | 10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 標準化されたアセスメントシートを使用し、保護者から児童の状況を把握し、専門家からの助言や指導を得ながら支援に繋がっています。 | |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | | |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|--------------|--|----|-----|---|----------------------------------|
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 色々な大人と接する機会を増やせるようプログラムを組んでいます。児童の特性によっては、同じ事を繰り返すことも大事と考えプログラムに反映しています。週替わりに内容を変え、季節に合わせた取り組みも工夫しています。 | |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | | |
| | 14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 個々の自立課題を設定し取り組んでいます。個々の特性を把握し、職員間で共有しながら計画を作成しています。 | |
| | 15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | | |
| | 16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 日々の個々の支援について、職員間で振り返りを行い、情報の共有を図っています。 | |
| | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 支援目標をもとに、日々適正に記録しています。 | |
| | 18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | | |
| | 19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている | ○ | | 常にガイドラインに沿って事業を点検し、改善に繋げています。 | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 事業所での状況を把握している法人の相談支援事業所の相談支援専門員が参画しています。 | |
| | 21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | | |
| | 22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | ○ | 医療的な配慮が必要な児童の情報を医療機関や療育支援施設から提供を受け、個別支援計画に反映しています。 | 医療的ケアが必要な児童の受入れについては、現在は行っていません。 |
| | 23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 新規利用者の情報については情報の共有を図っています。 | |
| | 24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | マイ児童デイサービスから他の障害福祉サービス事業所へ移行する場合は、相談支援専門員が情報の提供を行っています。 | |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|------------|---|----|-----|--|--|
| | 25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 個々児童の課題について、児童発達支援センター等に相談した助言を受け、早期の課題解決を図っています。 | 障害児の特性や虐待防止の取り組みとして、今後も研修計画に取り込んでいきます。 |
| | 26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | ○ | 法人主催の地域連携イベント(さんあいイベント)等において、障害のあるなしに関わらず相互理解の促進の機会の提供を行っています。 | 今後も機会があれば、地域の諸団体との交流の活性化を図っていきます。 |
| | 27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | | | 今後も社会福祉協議会主催の地区別協議会に、必要があれば積極的に参加していきます。 |
| | 28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | | |
| | 29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | ペアレントトレーニングとしての取り組みではなく、年齢や特性に応じた保護者向けの研修会を通じ、保護者の療育の支援を行っています。 | |
| 保護者への説明責任等 | 30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | | |
| | 31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 連絡帳で家庭での様子をうかがったり、送迎時に保護者と話をするよう心掛けています。 | |
| | 32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | 保護者同士の連携を図ることも視野に、地域連携イベント(さんあいイベント)等を開催しています。 | 今後も、事業所での見学会や交流会等を適時開催していきます。 |
| | 33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | | |
| | 34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | |
| | 35 個人情報に十分注意している | ○ | | | |
| | 36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | 児童の特性に応じ質問の仕方等を工夫し、コミュニケーションの活性化を図っています。 | |
| | 37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | 地域連携イベント(さんあいイベント)等を開催したり、地域の他の事業所施設等での施設外活動を通じ、地域との交流に取り組んでいます。 | |

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---------|----|--|----|-----|--|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | | ○ | | 全ての職員がマニュアルを熟知できるよう、事業所での保管等を工夫するとともに、保護者に対しては、今後もホームページやニュースレターを通じ、事業所での取り組みの周知を図っていきます。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | 年2回の個別支援計画評価等の保護者面談の場において、児童の安全確保の観点から対処が必要なときの身体拘束を含む対処の方法について、説明を行うと共に、口頭と書面にて了承を得、支援計画に記載しています。 | 今後も、研修会や職員会議等を通じ、児童の基本的な人権の擁護の大切さを学び、身体拘束を行わない療育支援に継続的に取り組んでいきます。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | | ヒヤリハット事例の蓄積を充実させるため、今後も積極的に事例の集積に努めます。 |